

小學作文新書

岡縣學務課編輯

卷三

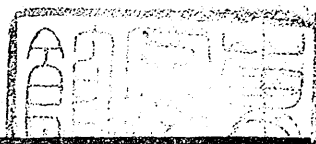
岡縣學務課編輯
小學作文新書
卷三

岡山縣學務課編輯 卷初等科第五級

小學作文新書

版權
所有

細謹
舍藏版



小學作文新書卷之二

初等第五級

短句之部

岡山縣學務課 編輯

該部ヲ授クルノ方法ハ既ニ第一卷ノ末ニ於テ之ヲ示スト雖モ今漢字ヲ交フルヲ以テ重複ヲ避ケズ更ニ之ヲ記ス即チ教師ハ先ヅ授ケント欲スル物品ヲ示シ實物ナキ片ハ摸造品其名稱或ハ其形狀ヲ圖シ

作文新書

卷之二

〇一

性質效用等ヲ問ヒ終ニ之ヲ授クル所ノ一句ニ
 約言セシメ(漢字ニ當ル片ハ時々)然ル後之ヲ各
 自ノ石盤ニ綴ラシムベシ(生徒ニ書板セシム)

漢字交リノ短句

第一

浅水
 深水
 谷水
 あかき水
 ふかき谷

長短
 青赤
 輕重
 近遠
 廣狹
 橋糸
 柳花
 本机
 家道
 海道
 池

長きはーみかき糸
 青きはあかき花
 かるき本机
 近きいへこほき道
 ひるき海せまき池

作史新書 卷之二

高山 低窓松
深高 細太 白手袋 靴
竿柱

たかき松 低まきまきど
黒まきまつ 白まきてびざろ
太まきはらほろまき竿
第二
山たか 海たか

紙薄 堅甘 酸辛 苦強 猛速 猪熊 藥薑 梅桃 金紙 牛馬

紙うすし 金たか
も、甘し 梅たすし
は、かき辛し 牛すりの苦し
猪たすし 熊たけし
うま速し 牛たろし

火水毬舟櫻蘭鳩鷹
暑冷圓長美香小銳

火あつゝ水つめた
毬まるし舟ながし
さくら美しらん香
はとふーたが鋭

第三

風雪人客鈴芽鳥花蜂蝶
吹降來去鳴出鳴散螿飛

かせが吹く雪がふる
人がくる客がさる
鈴がなるめが出る
鳥がなぐ花がちる
蜂がさすてんが飛ぶ

雨雲日月夜螢草木雁燕
降晴升入更光生繁歸來

雨がふる ともが晴る
月がのぼる 日がいり
夜がふける ほたるが光る
とまが生る 木がしげる
雁がかかるとばめが来る

雀猫鯉鮒星峯松笛
止眠跳泳隠重聳聞

雀かとまる 猫かねむる
鯉かはねる ふなが泳ぐ
星かかぬる 峯かかたぬる
松がうびゆる 笛がまきこゆる

第四

人家住

人い家いすみ

鳥木棲

とりい木いすむ

魚水棲

うをい水いすみ

獸穴棲

けものい穴いすむ

花春咲

花いはるいさき

蟲秋鳴

むい秋いなぐ

稻田植

いねい田いうゑ

菜畑植

菜い畑いうくる

蛙池棲

蛙い池いすみ

蟬林棲

せみい林いすむ

萩庭咲

萩の庭よさき

蓮水中

はすの水中よさく

爪指在

爪の指よあり

髪頭在

かみの頭よあり

櫓船用

ろの船よもちお

轡馬用

うわの馬よもちう

第五

耳聲聞

耳にてこゑを聞き

鼻香嗅

はなにて香をかぐ

手物持

手にて物よもち

作新書 卷之三

足道歩

足にて歩むを歩む

車荷運

車にて荷を運ぶ

盥物洗

たらいにて物を洗ふ

硯墨磨

硯にてすみをすり

鎌草刈

鎌にて草を刈る

机書讀

机にて書を読む

筆字書

筆にて字を書く

錨船止

かりにて船を止め

棹筏流

棹にて筏を流す

外米量

外にて米をはかり

作新書

卷之三

六〇八

秤重知

秤にておもさを知る

鋤田耕

すきにて田を耕す

斧木劈

斧にて木をさく

第六

火燃飯

火をもやして飯を

炊

かぐ

水汲茶

水をくみて茶を

剪

にる

杖曳庭

杖をひきてにはさ

歩

歩む

作文新書 卷之三

池堀魚

池を堀りて魚を

養

やいなふ

帽被靴

帽を被りて靴を

履

はく

馬騎梅

馬のりて梅を

着

みる

業終書

業をとりて書を

讀

よむ

杯把酒

杯をとりて酒を

飲

のむ

作文新書 卷之三 〇十

竹文新書 卷之二

舟出東

舟を出でて車に

乗

のる

花挿香

花とさきはさみて香を

焚

たく

山下河

山を下りてかはに

行

ゆく

月看琴

月をみて琴を

弾

ひく

笠被蓑

笠をかぶりてみおと

著

著る

竹文新書 卷之二 〇十一

作文新書 卷之三

竿持魚

竿をもちて魚を

釣

つる

定價五錢 五厘

小學作文新書卷之二

明治十七年十二月三日版權免許
同年八月 出版御届

編輯 岡山縣學務課

出版人

岡山縣平民 北村長太郎

備前國岡山區上町五十九番屋敷寄留

備前國岡山區上町

發行所

細謹舎